パーソナリティの他者への投影はどの程度生じるか

○丹治 光浩
(花園大学社会福祉学部臨床心理学科)
キーワード：パーソナリティ、投影、心理検査

A study on the extent of personality projection
Mitsuhiro TANJI
(Hanazono University)
Key Words: personality, projection, psychological test

目 的

「目くそ鼻くそを笑う」は、自分の欠点を棚に上げて、他人の欠点をバカにすることを指す格言であるが、心理学的には「目くそが鼻くそのことを笑うことができるのは、目くそ自身に鼻くそと同じ特徴が内在しているから」(投影)と考えることができる。
本研究では他者のパーソナリティを評価する際、どの程度自己のパーソナリティの投影が生じるかについて2種類の心理検査を使って調査することを目的としている。

【研究1】

方 法

対象は、関西のA私立大学の学生75名(男性35名、女性40名、平均年齢19.18歳±0.89歳)、B私立大学の学生82名(男性33名、女性49名、平均年齢18.75歳±0.80歳)で、調査はいずれも筆者が2013年度に担当した心理学関連科目の初回の授業を利用して行った。したがって、調査時における学生の筆者に対するイメージは未確立の段階といえる。
使用した心理検査は精研式パーソナリティ・インベントリィ(佐野・横田・坂部、1985)で、まず学生に自己のパーソナリティ評価をしてもらい、次に筆者のパーソナリティを予想し、評価する方式をとった。

結 果

A大学においては、Z(分裂性気質)、E(循環性気質)、S(粘着性気質)、H(ヒステリー)、N(神経質)の5類型において、B大学においては、E(循環性気質)、S(粘着性気質)、H(ヒステリー)の3類型において有意な相関が認められた(表1、2)。

表1. パーソナリティ・インベントリィにおける
学生の自己評価と他者評価の相関 (A大学)

類型	Z	E	S	H	N
相関	0.29	0.30	0.31	0.34	0.24
t 値	2.58	2.69	2.79	3.09	2.11
有意差	※	※※	※※	※※	※

※p<.05 ※※P<.01

表2. パーソナリティ・インベントリィにおける
学生の自己評価と他者評価の相関 (B大学)

類型	Z	E	S	H	N
相関	0.18	0.47	0.39	0.47	0.18
t 値	1.64	5.31	3.79	4.77	1.64
有意差	n.s.	※※※	※※※	※※※	n.s.

※※※p<.001

考 察

パーソナリティ・インベントリィにおいては、他者のパーソナリティ評価に自己のパーソナリティの投影が生じる可能性が示唆された。

【研究2】

方 法

対象は、関西のA私立大学の学生87名(男性43名、女性44名、平均年齢19.38歳±0.91歳)、B私立大学の学生90名(男性41名、女性49名、平均年齢18.57歳±0.83歳)で、調査はいずれも筆者が2014年度に担当した心理学関連科目の初回の授業を利用して行った。
使用した心理検査は主要5因子性格検査(村上・村上、1999)で、調査は研究1と同じ手続きで実施した。

結 果

E(外向性)、A(協調性)、C(勤勉性)、N(情緒安定性)、O(知性)のうち、B大学におけるA因子のみに有意な相関は認められた(表3、4)。

表3. 主要5因子性格検査における学生の自己評価と
他者評価の相関 (A大学)

因子	E	A	C	N	O
相関	0.13	0.18	0.03	0.15	0.12
t 値	1.21	1.69	0.28	1.40	1.12
有意差	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

表3. 主要5因子性格検査における学生の自己評価と
他者評価の相関 (B大学)

因子	E	A	C	N	O
相関	0.10	0.23	0.13	0.09	0.02
t 値	0.95	2.22	1.23	0.84	0.19
有意差	n.s.	※	n.s.	n.s.	n.s.

※p<.05

考 察

精研式パーソナリティ・インベントリィにおいて有意な相関が認められたことに対して主要5因子性格検査においてほとんど有意な相関が認められなかった理由としては、類型論と特性論の違いが考えられる。

引用文献

佐野 勝男・横田 仁・坂部 先平(1985). 精研式パーソナリティ・インベントリィ改訂版手引き 金子書房
村上 宣寛・村上 千恵子(1999). 性格は五次元だった 培風館